



## 明大3年トリオがインカレで大暴れ! 4年生を押さえて木下 賢(明大) 学生チャンピオン獲得! 全日本学生ボードセーリング選手権大会'95

「今、頑張っている後輩3人の中で、未だ恐ろしいと感じるほどの潜在的なポテンシャルを持っているのが、木下です」——松澤裕之(明大4年)

今年の学生チャンピオンを決定するインカレ(個人戦)が、11月19日~23日の5日間に渡って浜名湖で開催された。大会は全国の地区予選を勝ち抜き本戦出場を果たした男子101名、女子30名によって争われ、男子は木下 賢(明大)、女子は小菅寧子(関東学院)が優勝した。数々のレースで上位に進出し、先輩も恐れる急成長で今年の話題をさらった明大3年トリオ(木下、安斎、高宮)が、この大会でも7レース中5レースで3人がトップを分け合う大活躍。今回は、自らも7位シングル入りを果たしたトリオの一人、高宮君に大会の様態をレポートしてもらった。

大会は初日から明大3年コンビが上位を独占した。風は北西で4~8%のジャスト~アンダー。コースはトライアングルコースの上~サイド~下、上~下、上~下を3周で行なわれ、2レースを消化。第1レースは右のブローをうまく使った関東学院の海島選手が独走でトップ。2位に明治の安斎が入る。続く第2レースでは、下有利のスタートから抜け出し、上り下りともうまくブローをつないだ安斎がトップ。初日を終えて、2レースともポイントを手堅くまとめた安斎、木下の明大コンビが1~2位を形成する。自分は28位、18位とライバルに大きく差をつけられてしまった。

キャンセル1日を挟んで大会3日目、微風下で

4レースを消化。最初のレースを木下がトップ。微風下での走りに自信を持つ自分のお株をライバルに奪われる。このままでは、第4レース、スタートの混戦からうまく抜け出る。さらに1上でブローを拾い、トップで周回しそのまま独走。続くレースでも2位、最終日のレースでもトップと、遅ればせながらやっと自分らしさをアピール。が時すでに遅し。その間、木下は並みいる4年生の面々を押さえて全てのレースで5位以内に入る安定ぶり。インカレ史上まれに見る速さで独走態勢を築いて優勝を収めたのだった。

### RESULT

#### ●男子

| 順位 | 名前    | 大学   |
|----|-------|------|
| 1  | 木下 賢  | 明治   |
| 2  | 海島啓介  | 関東学院 |
| 3  | 安斎大輔  | 明治   |
| 4  | 由利功次  | 同志社  |
| 5  | 松澤裕之  | 明治   |
| 6  | 高野 毅  | 関東学院 |
| 7  | 高宮大輔  | 明治   |
| 8  | 一丸太彦  | 早稲田  |
| 9  | 大石隆太郎 | 関東学院 |
| 10 | 石橋真介  | 甲南   |

#### ●女子

| 順位 | 名前   | 大学   |
|----|------|------|
| 1  | 小菅寧子 | 関東学院 |
| 2  | 合田賢美 | 甲南   |
| 3  | 川口真紀 | 中京   |
| 4  | 太田美香 | 鹿兒島  |
| 5  | 高橋里枝 | 同志社  |
| 6  | 岩城重理 | 桜美林  |

### T O P I C S

#### 平成10年度から 女子も国体の正式種目へ

2年前の愛知国体から正式種目として採用されたボードセーリング。これまで男子のみによる開催だったが、このほど平成10年度の神奈川国体から女子のクラスも創設されることが決定した。

この女子クラス創設には、今年の福島国体を視察された秋篠宮殿下のお言葉がきっかけだったとのこと。男子のボードセーリング級をご覧になった殿下は「女子のクラスは？」と御一言。これが鶴の一声になって、女子クラスの創設は決まった。

女性レーサーにはこの決定は朗報なのだが、男子に対する女子のレーサーの絶対数の少なから、この決定には日本ボードセーリング連盟側では、憂慮する面もあるところは事実だ。国体は全都道府県から各1名のセイラーを選出し、48名で争われるのだが、絶対数の少ない女子の場合は、レース経験豊富な選手を全国から集められるか、という問題が生じてしまった。平成9年の大阪国体では、女子のプレ国体が行なわれることになっている。各都道府県では、女子選手育成に向けて対応策が迫られそうだ。